

# 園長先生の子育てひろば

令和4年7月

Society5.0

園長 山中 文

内閣府のHPでは、わが国がめざすべき未来社会の姿として「Society5.0」が示されています。「5.0」ということばが示すように、「Society」は、「1.0」から段階的に示されています。「Society1.0」は狩猟社会、「Society2.0」は農耕社会、「Society3.0」は工業社会、そして現代が相当する「Society4.0」は情報社会とのことのようです。

「Society5.0」とは、どんな社会でしょうか。

現在、少子高齢化や地方の過疎化はどんどん進んでいます。そのような中、さまざまにあふれている情報を処理する人の能力には限界がありますし、年齢や障害、地域といった制約などへの対応も求められるようになってきました。「Society5.0」は、人工知能（AI）や、「モノのインターネット」（=モノをインターネットに接続する技術、IoT）、ロボットなどの先端技術を取り入れて、そのような社会問題を解決し、経済発展をしていく社会として想定されているようです。

そうなってくると、それらを開発したり操作したりする情報活用能力が必要になってきます。学校現場でも、そのスキルとしてプログラミング教育が小学校以上で必修化されるようになってきました。

しかし、プログラミング教育とは、すぐにプログラミングができるということではありません。小学校ではまずプログラミング的思考の育成がめざされています。これは、「情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動や、プログラミングを体験しながらコンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施する」\*ことと説明されています。操作によって意図した処理を指示するといった体験などを通じて、情報を共有しながら論理的な思考力や粘り強く工夫する力などが求められているといえます。

さて、このような状況で、幼児教育はどのように変わっていくでしょうか。

プログラミング的思考力の芽生えは、これまでの幼児教育の活動でも培ってきたものもありますが、今後、さらにプログラミングの観点から、教材も適宜取り入れながら見通す力、組み立てる力、試行錯誤する力などに焦点が当てられていくかと思われます。また同時に、人にしかできない、他の人たちの気持ちを理解したり、感情や意見を共有したりしていくことも改めて大事な教育となっていくでしょう。6月号でお話したようなさまざまな体感を通した活動の充実も変わらず必要だと思います。新しい状況を踏まえながら、変わるもの、変わらないものを選択していきたいですね。

\*小学校プログラミング教育に関する概要資料 ([mext.go.jp](https://mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afIELDfile/2019/05/21/1416331_001.pdf))

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afIELDfile/2019/05/21/1416331\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afIELDfile/2019/05/21/1416331_001.pdf)